

令和最初の千代田走友会「別府大分毎日マラソン」戦記

千代田走友会 山田 隼

2020年2月2日(日)エリートランナー登竜門の「第69回別府大分毎日マラソン」に千代田走友会7名、応援5名で参加しました。

別大ツアーを千代田走友会幹事として行って2020年が6回目の開催となりました。

令和最初の別大マラソン、2020年のテーマは「さあ、駆け出そう」。このシンプルかつ力強いメッセージの下、毎年新人の実業団や学生ランナーのマラソン登竜門とされる同大会では、2020年東京五輪(当時)の次の2024年パリ五輪を目指す若きランナーが集結!!特に青山学院大学の箱根駅伝ランナーOBの林奎介選手や2020年の青学大の箱根駅伝4区で区間新記録を出した「11番目の男」の苦労人、吉田祐也選手などの出走が話題を呼びました。また年々3時間30分以内で走る市民ランナーが増えている中、今年も福岡国際や琵琶湖毎日マラソンとは対照的に別大マラソンはシリアスランナーの裾野を広げる試みが行われており、無条件で出場できるカテゴリ1~3(サブスリーランナー)も増え、カテゴリ4(3時間00分~3時間30分)先着枠もさらに増やした結果、大会最多の4,051人の参加人数となり、さらに別大マラソンは東京五輪のパラリンピック視覚障害マラソン最終選考会も兼ねており、報道陣も例年以上に多く、盛り上がりを見せました。

今年、別府に千代田ブルーをなびかせたメンバーは、初出場2名、ベテランランナー5名の計7名。かつてはカテゴリ4も余裕をもってエントリーできた別大マラソンでさえ、今回(2019年9月のエントリー開始)は開始15分でカテゴリ4が締め切られる異常事態で、連続出場や久しぶりの参加、初出場を予定していたメンバーも先着クリック戦争に破れてしまい、参加できたのは全員サブスリー経験者の7名という、千代田走友会の別大エリートランナー組でも歴史に残るハイスピードメンバーになりました。(サブスリーを直近2年でしていると無条件で参加可能)

前夜の決起会では、別府駅近くの和食レストランで、マニアックなランニング事情や知識に花を咲かせながら、全員完走ではなくサブスリーを誓い合いました。

暖冬の影響で大会当日も太陽が燦燦と輝き、いつもスタートの海たまご(水族館)のお土産施設(おさる館)内で寒さを凌ぐはずが今年は外にいるランナーも多いほど暖かく、応援隊も「暑い」と言っていたので、「暑すぎるのも嫌だなあ」と話しながら、約束通り11時に集合写真をして、皆それぞれの思いを胸にスタートラインへ散っていきました。気温はスタート12度と思ったより暑くなく、無風に近い、良い気象条件のレースでした。

結果はベストな気候条件と大応援の効果もあり、千代田走友会として2011年以来9年ぶりに別大サブスリーが4人も出る快挙を達成しました!!メンバーの記録は、千代田走友会のレジェンドの59歳、大矢敏夫さんが2時間48分で最初にゴール。これで大矢さんの大

会戦績は 71 回フルマラソンに参加して、通算 67 回目のサブスリー、そして 61 回連続のサブスリー達成!!千代田走友会に入ってから 61 回サブスリーしているので、入会後のサブスリー率は脅威の 100%!!本人は 1 月に右足の甲が痛く疲労骨折の疑いがあったので、噂のナイキ「ヴェイパーフライ」を使用した結果、このタイムが出たと言っていました。ケガをしても本番に合わせてくる強さ、速さ、「巧さにメンバー全員脱帽してしまいました。コロナの影響で還暦サブスリーは 1 年お預けになりましたが、2022 年が楽しみです。2 番手の三輪芳和さんも仕事で月間 100km 走れていないとしながら 2 時間 56 分。別大で自己ベストを出してから 2 年連続サブスリー失敗した渡辺健介さんは「別大の借りは別大でしか返せない」と 3 年ぶりに 2 時間 59 分で返り咲き。2019 年のつくばマラソンで初サブスリーをして臨んだ内垣正行さんのデビュー戦は 3 時間 7 分、同じくサブスリー経験者で別大初デビューの山崎裕太さんは 3 時間 15 分、6 年連続出場も年末に不慮な事故で完走目標で臨んだ安納信博さんは 3 時間 27 分で目標達成しました。

私は 2 時間 56 分 58 秒と自身初の 2 年連続別大サブスリー。スタートから 5km19 分 38 秒で通過し、体感速度よりも速いタイムに焦り、速度を落とそうとしても 15km を 59 分台で通過してしまいます。22km ぐらいから何となく身体が重く感じ、不安が募るまま、ただ足を前に進め海沿いから大分市街地へ。29km 過ぎの弁天大橋の下り坂、応援隊にも「辛い」と叫んで通過。しかし 30km で手元の時計を見ると 2 時間 2 分。不思議と km4 分 5 秒前後で走っており、自己ベストに近い通過タイム。普通は身体が辛くて気持ちも切れるのが、逆に気持ちは切れかかっているのに足が割と平気という矛盾状態に陥り、「歩きたい」と思いながら 31km 以降も 4 分 30 秒前後で通過。35.5km 過ぎ、パラリンピック女子内定選手の世界記録保持者、道下美里選手と並走した 20 秒間が TBS にずっと映っていました。残り 5km となると「歩きたい」から「km5 分で走ってもサブスリーできる」とスイッチが変わり、イーブンペースで走る走る。40km 地点で 2 時間 47 分でサブスリーを確信!!最後、右に曲がれば 2 回目の応援隊が待つ土手へ。41km 地点、応援隊と妻の叱咤激励を受けて、トラックに入り拳を振り上げ、ガッツポーズ!!公約通り平成最後も令和最初もサブスリーを達成!!

応援隊も例年より多かったので、今回は 4 か所で応援と撮影を行われました。

打上げは、別府近くの居酒屋で、関サバ、豊後牛、とり天、団子汁、焼酎等を堪能し、メは高級ジェラート、その後別府名物温泉につかり、2021 年の参加を誓い合いました。

また、この大会でサリ選手が大会新記録の 2 時間 8 分 1 秒、吉田祐也選手が学生かつデビュー戦歴代 2 位の 2 時間 8 分 30 秒、道下選手が視覚障害女子世界新記録の 2 時間 54 分 22 秒をマークする記録ラッシュの大会になりました。そして、招待選手や実業団だけでなく市民ランナーもナイキヴェイパーフライ率の高さに脱帽。どこ見てもピンク、ピンク。

この大会の後の東京マラソンが新型コロナウイルスで縮小になり、別大マラソンは影響

を受けなかった最後の大会の1つだったので、後々ホッとしました。

今年も同大会は、制限時間3時間30分で、約1200人が完走できない過酷な高速レースですが、年々参加人数を増やす傾向にあるため、昔テレビで見た同大会が憧れから現実に変わるモチベーション向上として、そして応援する側も力が入る世界観が変わるレースであり、参加することに価値のある大会!!

千代田走友会で資格のあるメンバーは、現時点で約17人ほど。残念ながら新型コロナウイルスの影響で2021年は中止となりましたが、2022別大は念願の史上最多の2桁人数で千代田ブルーを別府になびかせたいと考えています。

